

スポーツ委員会 「スポーツと暴力」に関するシンポジウム企画案

趣旨

スポーツ界における暴力は、大きな社会問題となっている。高校の部活動顧問による体罰により生徒が自殺した事件、大学体育会指導者が選手に悪質なプレーを支持したとされる事件、相撲・野球・サッカー等のいわゆるプロ・スポーツ界における事件などがメディアで取り上げられてきた。

こうした社会的状況を背景に、体育学・スポーツ科学領域の学会等においても、このテーマは度々取り上げられてきた。そこで議論にもとづき、スポーツ組織による「暴力根絶宣言」の提示、倫理ガイドラインの作成、相談窓口の設置等の改革、指導者に対する教育・研修の見直し等が行われてきた。しかし、残念なことに、中高等教育機関からプロに至るまで、競技レベルに関わりなく、スポーツ界における暴力行為が根絶されたとは言い難い状況がある。

そこで本委員会では、「スポーツと暴力」の根絶に向けたスポーツ政策策定に向け、体育学・スポーツ科学以外の領域とも学際的な議論を深めたい。

なお、このシンポジウムでは、スポーツに直接的に関わる、またはその延長上にある人間関係における暴力的行為を①身体的制裁、②言葉や態度による人格の否定・威圧・嫌がらせ、③性的虐待・性的暴力・性的嫌がらせ、④上記の①～③に対する傍観、⑤その他人権を侵害する行為、として捉えることとする。

複数委員の登壇を要することを踏まえ、登壇者案は調整を行う。また具体的登壇者案については検討できていないが、従来の体育学・スポーツ科学におけるシンポジウム等において、さらなる議論の可能性があるテーマとして(5)(6)をあげることができる。

<登壇者による話題提供の方向性>

(1) スポーツ界における現状や対策

登壇者案：永富先生（本委員会話題提供者）

(2) 脳科学の立場から

登壇者案：村井俊哉氏（内諾あり）

人の脳の衝動性制御のメカニズムに関する脳研究

京大精神科教授、日本学術会議第2部会員

(3) アスリートおよびスポーツ心理学の立場から

登壇者案：田中ウルヴェ京氏

1988年ソウル五輪シンクロ・デュエット銅メダリスト

日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング上級指導士

(4) スポーツにおける暴力・人権侵害行為根絶のための法的サポートシステムの立場から

登壇者案：井上洋一氏

奈良女子大学教授、スポーツ法学

一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センター会長

(5) 近代日本の教育制度と暴力（歴史的視点からの論点提示）

(6) スポーツにおける人権課題に対する海外の取り組み